

日本法制史文献目録(平成31年・令和元年 2019年)

単行本(著編者別50音順)

著(編)者	書名	発行所
〔一般〕		
額定其勞・佐々木健・高田久実・丸本由美子編	法制史学会70周年記念若手論文集 身分と経済(以下『身分と経済』と略)	慈学社
水上雅晴編／高田宗平編集協力	年号と東アジアー改元の思想と文化(以下『年号と東アジア』と略)	八木書店古書出版部
〔古代〕		
石野 博信	邪馬台国時代の王国群と纏向王宮	新泉社
今津 勝紀	戸籍が語る古代の家族	吉川弘文館
岩永 省三	古代都城の空間操作と荘厳	すいれん舎
榎本 淳一	日唐賤人制度の比較研究	同成社
大橋 信弥	古代の地域支配と渡来人	吉川弘文館
佐野 真人	古代天皇祭祀・儀礼の史的研究	思文閣出版
篠川 賢	古代国造制と地域社会の研究	吉川弘文館
白石太一郎先生傘寿記念論文集編集委員会編	古墳と国家形成期の諸問題(以下『古墳と国家形成期の諸問題』と略)	山川出版社
田中 史生	渡来人と帰化人	KADOKAWA
仁藤敦史編	古代王権の史実と虚構 古代文学と隣接諸学3(以下『史実と虚構』と略)	竹林舎
春名 宏昭	〈謀反〉の古代史ー平安朝の政治改革	吉川弘文館
平林 章仁	物部氏と石上神宮の古代史ーヤマト王権・天皇・神祇祭祀・仏教	和泉書院
尾留川 方孝	古代日本の穢れ・死者・儀礼	ペリかん社
深草 化人	天皇制国家の古層	東京図書出版
古市 晃	国家形成期の王宮と地域社会ー記紀・風土記の再解釈	塙書房
本郷恵子	院政ー天皇と上皇の日本史	講談社
山口 英男	日本古代の地域社会と行政機構	吉川弘文館
〔鎌倉・室町・戦国期〕		
稲葉 伸道	日本中世の王朝・幕府と寺社	吉川弘文館
海老澤 衷	よみがえる荘園ー景観に刻まれた中世の記憶(以下『よみがえる荘園』と略)	勉誠出版
川合 康	院政期武士社会と鎌倉幕府	吉川弘文館
神田 裕理	朝廷の戦国時代ー武家と公家の駆け引き	吉川弘文館
佐伯 徳哉	権門体制下の出雲と荘園支配	同成社
佐藤 秀成	鎌倉幕府文書行政論	吉川弘文館
柴辻 俊六	戦国期武田氏領の研究ー軍役・諸役・文書	勉誠出版
谷口 雄太	中世足利氏の血統と権威	吉川弘文館
北条氏研究会編	北条氏発給文書の研究 附発給文書目録	勉誠出版
松本 一夫	中世武士の勤務評定ー南北朝期の軍事行動と恩賞給付システム	戎光祥出版
矢田 俊文編	戦国期文書論(以下『戦国期文書論』と略)	高志書院
渡邊 大門編	戦国・織豊期の政治と経済(以下『戦国・織豊期の政治と経済』と略)	歴史と文化の研究所
〔織豊・江戸期〕		
浅見雅一・野々瀬浩司編	キリスト教と寛容ー中近世の日本とヨーロッパ(以下『キリスト教と寛容』と略)	慶應義塾大学出版会
荒武 賢一郎編	近世日本の貧困と医療(以下『貧困と医療』と略)	古今書院

荒野 泰典	「鎖国」を見直す	岩波書店
岩城 卓二(代表)	幕末期における大坂・大坂城の軍事的役割と畿内・近国藩(以下『大坂・大坂城』と略)	平成26～30年度文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書
岩橋 清美・吉岡孝編	幕末期の八王子千人同心と長州征討	岩田書院
岩橋 勝	近世貨幣と経済発展	名古屋大学出版会
久野 雅司	織田信長政権の権力構造	戎光祥出版
小宮 木代良編	近世前期の公儀軍役負担と大名家－佐賀藩多久家文書を読みなおす	岩田書院
佐藤 孝之	近世駆込寺と紛争解決	吉川弘文館
佐藤孝之・三村昌司編	近世・近現代 文書の保存・管理の歴史(以下『文書の保存・管理』と略)	勉誠出版
清水 紘一編	江戸幕府と長崎政事(以下『長崎政事』と略)	岩田書院
白川部 達夫	近世の村と民衆運動	塙書房
杉森 哲也編	シリーズ三都 京都巻(以下『京都巻』と略)	東京大学出版会
鈴木 直樹	近世関東の土豪と地域社会	吉川弘文館
高塩 博	江戸幕府の「敲」と人足寄場－社会復帰をめざす刑事政策	汲古書院
朝幕研究会編	論集 近世の天皇と朝廷(以下『天皇と朝廷』と略)	岩田書院
塚田 孝編	シリーズ三都 大坂巻(以下『大坂巻』と略)	東京大学出版会
西田 かほる	近世甲斐国社家組織の研究	山川出版社
幕藩研究会編	論集 近世国家と幕府・藩(以下『幕府・藩』と略)	岩田書院
藩法研究会編	幕藩法の諸相－規範・訴訟・家族(以下『幕藩法』と略)	汲古書院
藤谷 彰	近世大名家臣団と知行制の研究	清文堂出版
松方 冬子編	国書がむすぶ外交(以下『国書』と略)	東京大学出版会
松本 剣志郎	江戸の都市化と公共空間	塙書房
萬代 悠	近世畿内の豪農経営と藩政	塙書房
水本 邦彦	海辺を行き交うお触れ書き－浦触の語る徳川情報網	吉川弘文館
宮下 和幸	加賀藩の明治維新－新しい藩研究の視座 政治意志決定と「藩公儀」	有志舎
村田 路人	近世畿内近国支配論	塙書房
吉田 伸之編	シリーズ三都 江戸巻(以下『江戸巻』と略)	東京大学出版会
[明治以降]		
赤坂 憲雄	象徴天皇という物語	岩波書店
赤司 友徳	監獄の近代－行政機構の確立と明治社会	九州大学出版会
浅井良夫・大門正克・吉川容・永江雅和・森武磨編著	中村政則の歴史学	日本経済評論社
芦部信喜・高橋和之・高見勝利・日比野勤編著	日本国憲法制定資料全集(11)(12) 臨時法制調査会Ⅱ・Ⅲ 日本立法資料全集 81・82	信山社
天野 郁夫	新制大学の時代－日本の高等教育像の模索	名古屋大学出版会
池田 さなえ	皇室財産の政治史－明治二〇年代の御料地「処分」と宮中・府中	人文書院
池田 政章編著	憲法問題研究会メモワール(上)(下)	信山社
岩井忠熊・広岩近広	象徴でなかった天皇－明治史にみる統治と戦争の論理	藤原書店
海老澤表・近藤成一・甚野尚志編	朝河貫一と人文学の形成(以下『朝河貫一』と略)	吉川弘文館
遠藤 薫編著	日本近代における〈国家意識〉形成の諸問題とアジア(以下『国家意識』と略)	勁草書房
大津淳一郎著／野口勝一批点	帝國憲政と道義 日本官吏任用論 全 日本立法資料全集別巻1238	信山社

岡山禮子・吉田恵子・平川景子・武田政明・細野はるみ・長沼秀明	近代日本の専門職とジェンダー―医師・弁護士・看護職への女性の参入(以下『専門職とジェンダー』と略)	風間書房
小澤浩・吉田裕・犬島肇・山田博・鈴木明子・勝山敏一	ものがたり<近代日本と憲法>―憲法問題を「歴史」からひもとく	桂書房
大日方 純夫	日本近現代史を生きる―過去・現在・未来のなかで	学習の友社
桂島 宣弘	思想史で読む史学概論	文理閣
嘉戸 一将	主権論史―ローマ法再発見から近代日本へ	岩波書店
加藤 諭	大学アーカイブズの成立と展開―公文書管理と国立大学	吉川弘文館
加藤 房藏	國體擁護日本憲政本論 日本立法資料全集別巻1239	信山社
川路利永・松井幹郎・廣瀬 權・吉原文司	【CD版】加藤 晶会長追悼記念 大警視川路利良関係資料集[『大警視川路利良聖地巡礼』ガイドブック]、『大警視だより』、『大警視だより』続刊及び『大警視川路利良関係文献集成』]	大警視川路利良研鑽会
河西 秀成	平成の天皇と戦後日本	人文書院
川東 輝弘	評伝 法学博士星野通先生―ある進歩的民法・民法典研究者の学者人生	日本評論社
清原 貞雄編述	國體論史 日本立法資料全集別巻1240	信山社
桑田 禮彰	議論と翻訳―明治維新时期における知的環境の構築	新評論
警察政策学会・警察史研究部会	明治の国家と警察制度の形成―庶民の安堵・産業の継続	警察政策学会
警察政策学会	【冊子版+CD版】令和元年度警察史研究部会特別調査研究報告書 近代警察史関係文献目録抄―川路大警視検討を中心に	警察政策学会
小路田泰直・田中希生編	明治維新とは何か?	東京堂出版
後藤 正人	児玉花外の詩文と生涯―社会的ロマン派詩人	文理閣
小林 敏男	国体はどのように語られてきたか―歴史学としての「国体」論	勉誠出版
酒匂一郎・新谷眞人・福永清貴編集	市民法学の新たな地平を求めて―法哲学・市民法学・法解釈学に関する諸問題 篠原敏雄先生追悼論文集(以下『新たな地平』と略)	成文堂
佐藤健太郎・荻山正浩・山口道弘編著	公正から問う近代日本史(以下『公正』と略)	吉田書院
佐藤 俊一	日本地方自治の群像 第10巻	成文堂
繁田 真爾	「悪」と統治の日本近代―道徳・宗教・監獄教誨	法蔵館
島田陽一・菊池馨実・竹内(奥野)寿編著	戦後労働立法史	旬報社
清水 靖久	丸山真男と民主主義	北海道大学出版会
将棋面 貴巳	愛国の構造	岩波書店
甚野尚志・河野貴美子・陣野英則編	近代人文学はいかに形成されたか―学知・翻訳・蔵書	勉誠出版
末岡精一遺稿	比較國法學 全 日本立法資料全集別巻1232	信山社
瀬畑 源	公文書管理と民主主義	岩波書店
瀬畑 源	国家と記録―政府はなぜ公文書を隠すのか?	集英社
専修大学今村法律研究室編	神兵隊事件 別巻七 <今村力三郎訴訟記録48>	専修大学出版局
総合人間学会編	戦前・戦時下の人文社会科学と法学者(以下『人文社会科学と法学者』と略)	ハーベスト社

高橋 誠一郎	「罪と罰」の受容と「立憲主義」の危機－北村透谷から島崎藤村へ	成文社
建野郷三・水野正香	帝國憲法正解 全 日本立法資料全集別巻1236	信山社
谷田 三郎編	獄制研究資料 第一輯 日本立法資料全集別巻1225	信山社
Darryl E. Flaherty 著／浅古弘監訳	近代法の形成と実践－19世紀日本における在野法曹の世界	早稲田大学比較法研究所
千葉 勝美	憲法判例と裁判官の視線－その先に見ていた世界	有斐閣
地方史研究協議会編	学校資料の未来－地域資料としての保存と活用	岩田書院
中京大学社会科学研究所アーカイブズ研究プロジェクト編	公文書管理における現状と課題	創泉堂出版
塚崎 直義編	辨護三十年 日本立法資料全集 別巻1243	信山社
所 功編	「五箇条の御誓文」関係資料集成	原書房
友田 昌宏編	幕末維新期の日本と世界－外交経験と相互認識(以下『日本と世界』と略)	吉川弘文館
中野目 徹編	近代日本の思想をさぐる－研究のための15の視角	吉川弘文館
成田 龍一	近現代日本史との対話－幕末・維新－戦前編	集英社
西周著／菅原光・相原耕作・島田英明訳	西周 現代語訳セレクション	慶應義塾大学出版会
西 修	証言でつづる日本国憲法の成立経緯	海竜社
「20世紀と日本」研究会編	もうひとつの戦後史－第一次世界大戦後の日本・アジア・太平洋(以下『戦後史』と略)	千倉書房
日本近代建築法制100年史編集委員会	日本近代建築法制の100年－市街地建築物法から建築基準法まで	日本建築センター
日本史研究会・歴史科学協議会・歴史学研究会・歴史教育者協議会編	創られた明治、創られる明治－「明治150年」が問いかけるもの	岩波書店
花房博文・宮崎淳・大野武編	土地住宅の法理論と展開－藤井俊二先生古稀祝賀論文集(以下『土地住宅の法理論と展開』と略)	成文堂
原田 敬一編	近代日本の政治と地域(以下『地域と政治』と略)	吉川弘文館
藤田 大誠	国家神道と国体論－宗教とナショナリズムの学際的研究	弘文堂
米欧亜回覧の会・泉三郎編	岩倉使節団の群像－日本近代化のパイオニア	ミネルヴァ書房
星野 美賀子編	星野英一 パリ大学日記 1956年10月～1958年9月	信山社
松沢 裕作編	森林と権力の比較史	勉誠出版
松本 尚子編	法を使う／紛争文化 法文化(歴史・比較・情報)叢書 17(以下『法を使う』と略)	国際書院
御厨 貴編	オーラル・ヒストリーに何が出来るか－作り方から使い方まで	岩波書店
三阪 佳弘編著	「前段の司法」とその担い手をめぐる比較法史研究(以下『前段の司法』とその担い手』と略)	大阪大学出版会
水野 鍊太郎	水野博士論集 日本立法資料全集別巻1244	信山社
宮地 正人	天皇制と歴史学－史学史的な分析から	本の泉社
宮地正人監修／大日方純夫・山田朗・山田敬男・吉田裕著	日本近現代史を読む 増補改訂版	新日本出版
矢野 達夫	伊予松山 裁判所ものがたり【明治編】	創風社出版

横田 隆	工場法小史	中央労働災害防止協会
吉田 裕	日本人の歴史認識と東京裁判	岩波書店
吉野 剛弘	近代日本における「受験」の成立—「資格」試験から「選抜」試験へ	ミネルヴァ書房
歴史学研究会編・加藤陽子編集責任	天皇はいかに受け継がれたか—天皇の身体と皇位継承(以下『天皇はいかに』と略)	績文堂出版

論文(執筆者別50音順)

執筆者	題名	掲載誌・巻号
[古代]		
相曾 貴志	勢多家旧蔵延喜式について	国立歴史民俗博物館研究報告218
伊集院 葉子	比売朝臣・姫帝・姫太上天皇—女帝と女官に付された「ヒメ」をめぐる	『史実と虚構』
井上 正望	王権と服忌	『史実と虚構』
井上 正望	廢務からみた神祇祭祀	国立歴史民俗博物館研究報告218
上村 正裕	八・九世紀遣使放	続日本紀研究416
榎村 寛之	伊勢と斎王	『史実と虚構』
大隅 亜希子	日本古代における布の単位「端」と「段」について	国立歴史民俗博物館研究報告218
大友 裕二	阿倍内親王の「立太子」前後	法政治研究5
小口 雅史	(書評) 十川陽一著「律令国家と出羽国—地域的特質についての基礎的考察」	法制史研究68
小倉 慈司	『延喜式』巻五校訂(稿)	国立歴史民俗博物館研究報告218
小倉 慈司	『延喜式』巻一七の写本系統と本文校訂	国立歴史民俗博物館研究報告218
大日方 克己	不堪佃田奏にみる政務・儀式・年中行事	『史実と虚構』
笠原 英彦	律令国家の成立と皇位継承—直系継承と官僚制	法学研究92-12
神谷 正昌	摂関期の皇統と王権	『史実と虚構』
神戸 航介	平安時代の検交替使と朝使	国立歴史民俗博物館研究報告218
清武 雄二・神戸航介・堀部 猛・古田 一史	『延喜式』巻一七「内匠寮」現代語訳(稿)	国立歴史民俗博物館研究報告218
熊谷 公男	蝦夷・隼人と王権—隼人の奉仕形態を中心にして	『史実と虚構』
久米 舞子	長岡は「荒都」か?—都市と王権	『史実と虚構』
倉本 一宏	『延喜式』と頒曆	国立歴史民俗博物館研究報告218
久禮 旦雄	上代の皇位継承	芸林68-1
久禮 旦雄	日本古代の正史編纂と王権	『史実と虚構』
久禮 旦雄	平安時代初期の王権と元号	『年号と東アジア』
小林 宏	「基」説小考—宮部論文「基」の注釈についての内容的考察」に寄せて	法史学研究会会報22
小林 宏	日唐除免官当法に関する若干の考察	國學院法学56-4
小林 理恵	日本古代の喪葬における哭泣儀礼について	古代文化71-2
坂上 康俊	大宝二年筑前国嶋郡川辺里戸籍の故地	史淵156
鷺森 浩幸	播磨国造と播磨直氏	続日本紀研究418
佐々田 悠	神祇と王権	『史実と虚構』
佐藤 長門	讓位制の成立とその展開	國學院雑誌120-11
佐藤 長門	殯と王権継承	『古墳と国家形成期の諸問題』
佐藤 長門	六世紀の王権—専制王権の確立と合議制	『史実と虚構』
佐藤 亮介	即位山陵使の成立と展開	国史学228
里館 翔大	「浄御原令式」の特性と採用の意義	駿台史学166
関根 淳	女帝と政争の奈良王権	『史実と虚構』

田中 昇一	郡散事についての基礎的研究－地方行政における雑任層の編成	続日本紀研究417
手嶋 大侑	平安中期における受領と年官	歴史学研究983
中林 隆之	古代王権と仏教	『史実と虚構』
中村 光一	江戸時代における『延喜式』研究の一樣相－縫殿式十三雑染用度条をめぐって	国立歴史民俗博物館研究報告218
仁藤 敦史	「延喜齋宮式」からみた堅魚製品の貢納と消費	国立歴史民俗博物館研究報告218
仁藤 敦史	七世紀の王権－女帝即位と東アジア情勢	『史実と虚構』
仁藤 智子	平安初期の王権－女帝・皇后不在の時代へ	『史実と虚構』
二星 祐哉	古代国家における陵墓歴名の成立とその変遷－『延喜式』陵墓歴名の分析を手がかりに	史学雑誌 128-12
橋本 剛	国司専当放	古代文化70-4
橋本 剛	律令制下の地方行政監察使－〈道別派遣型〉監察使の特質	歴史学研究983
長谷川 昇平	観察使制と平城天皇	続日本紀研究417
長谷部 将司	氏族と王権－高橋氏による「高橋氏文」作成をめぐって	『史実と虚構』
早川 万年	延喜神祇式の本文校訂について	国立歴史民俗博物館研究報告218
平石 充	出雲国の軍団について	出雲古代史研究29
平野 卓治	対外交流と王権	『史実と虚構』
藤森 健太郎	即位儀礼と王権	『史実と虚構』
古市 晃	五世紀の王権－王宮・王族・地域社会	『史実と虚構』
古田 一史	雑工戸の変質と造兵司の解体	国立歴史民俗博物館研究報告218
細井 浩志	日本の古代における年号制の成立について	『年号と東アジア』
堀 裕	天武天皇殯儀礼の構造的な研究	『史実と虚構』
堀部 猛	古代の鍍金と内匠式－金・水銀の分量比をめぐって	国立歴史民俗博物館研究報告218
本庄 総子	慶雲三年輸租折衷法と熟田	史林102-3
増成 一倫	新任国司への給糧と律令地方財政	続日本紀研究416
松本 政春	軍団兵士の簡点と良賤制	日本歴史857
水口 幹記	祥瑞災異と改元	『史実と虚構』
溝口 優樹	凡河内国造の成立	続日本紀研究415
宮部 香織	明法博士讃岐永直の配流について	法史学研究会会報22
三輪 仁美	『延喜式』の写本系統に関する試論－巻十四を事例として	国立歴史民俗博物館研究報告218
森 哲也	馱鈴と万葉歌	続日本紀研究417
森田 悌	大宝田令荒廢条と百姓墾	続日本紀研究418
山上 憲太郎	八世紀における律令官司の機能と変遷－図書寮を事例に	ヒストリア277
吉田 拓矢	日本古代における暦法の施行と運用	日本歴史852
[鎌倉・室町・戦国期]		
赤松 秀亮	在地荘官の活動からみた室町期荘園制の変容－播磨国矢野荘田所、本位田家盛に注目して	ヒストリア273
赤松 秀亮	播磨国矢野荘における下地中分と名体制	『よみがえる荘園』
赤松 秀亮	播磨国矢野荘における水害と損免要求－「荘家の一揆」形成の社会的論理	地方史研究398
朝比奈 新	伊勢神宮の荘園支配と村落の再編	地方史研究402
飯塚 隆	徳政令と戦乱	栃木県立文書館研究紀要23
石原 比伊呂	中世天皇制と学芸	歴史評論836
磯川 いつみ	訴訟時における中世文書の「加工」	四国中世史研究15
井原 今朝雄	笠松宏至『徳政令』を読む－近代経済史学・法史学の方法論をめぐって	日本史研究688
片桐 昭彦	戦国期の過所・伝馬宿送手形と印判状	『戦国期文書論』

鍋木 紀彦	鎌倉期高野山無量寿院と加賀国益富保	北陸史学68
亀田 俊和	南北朝期室町幕府研究とその法制史的意義—所務沙汰制度史と將軍権力二元論を中心に	法制史研究68
川岡 勉	「赤穴郡連置文」に見える国人と守護被官人	資料学の方法を探る18
川岡 勉	戦国期守護の寺社統制と幕府・朝廷	『戦国期文書論』
川戸 貴史	(書評)長澤伸樹著『楽市楽座令の研究』	法制史研究68
木下 聡	中世後期の武士の官途認識と選択	年報中世史研究44
木下 竜馬	新出鎌倉幕府法令集についての一考察—青山文庫本貞永式目追加	古文書研究88
木下 竜馬	武家への挙状、武家の挙状—鎌倉幕府と裁判における口入的要素	史学雑誌128-1
久下 沼謙	戦国大名島津氏一門と「脇之惣領」—島津忠将とその子孫を中心に	日本歴史850
熊谷 隆之	五福とは何か—越中国御服荘の考察	富山史壇190
栗山 圭子	女性からみた中世天皇制	歴史評論836
黒瀬 にな	優先的判断事項の争奪と出訴方法—鎌倉末期公家訴訟にみる「沙汰之肝要」設定の実態	『身分と経済』
小池 勝也	応永年間における東国寺社諸職の安堵について	『室町遺文関東編』第二巻月報
小池 辰典	鉤の陣にみる戦国初頭の將軍と諸大名	日本歴史851
小久保 嘉紀	戦国期幕府家格と三好氏の書札礼	ヒストリア275
小谷 利明	判物と折紙	『戦国期文書論』
近藤 成一	朝河貫一の南九州中世史研究	『朝河貫一』
近藤 成一	戦後中世史研究と天皇制	歴史評論836
酒井 智大	闕所と替地から見た所務沙汰—中世武家訴訟制度と恩賞給与	国家学会雑誌132-5・6
阪田 雄一	鎌倉將軍府の変容—直義から尊氏へ	千葉史学75
酒匂 由紀子	中世の「土倉」に関する解釈の淵源について	法制史研究68
櫻井 彦	信州中野氏所領相続の再検討	日本歴史849
櫻井 彦	善光寺「寺辺悪党」をめぐって	藝林68-1
佐藤 雄基	勝俣鎮夫『一揆』を読む	日本史研究688
佐藤 雄基	日本中世史は何の役に立つのか—史学史的考察と個人的覚書	史苑79-2
佐藤 雄基	(書評)長又高夫著『御成敗式目編纂の基礎的研究』	法制史研究68
佐藤 稜介	戦国期における幕府奉行人家の分裂	古文書研究88
三田 武繁	治承・寿永の内乱と鎌倉幕府地頭制度	東海史学53
柴辻 俊六	戦国期武田氏文書中の「案内」の語義と機能	『戦国・織豊期の政治と経済』
柴辻 俊六	戦国期の徳役銭と諸役	研究論集歴史と文化4
柴辻 俊六	戦国期の「取成」の語義と実体	研究論集歴史と文化5
神野 潔	鎌倉御家人の法生活と訴訟	『法を使う』
神野 潔	「御成敗式目」二七条の基礎的考察	鎌倉遺文研究44
高木 徳郎	紀伊国神野・真国荘の立券と在地の動向	『よみがえる荘園』
高谷 知佳	中世京都の赦免	『身分と経済』
高橋 一樹	中世前期における書状のコミュニケーション論的考察	『戦国期文書論』
高橋 充	戦国期奥羽の書状の形態をめぐって	『戦国期文書論』
田中 慶治	『大乘院寺社雑事記』に記された奉書に関する一考察	『戦国期文書論』
田辺 旬	北条政子発給文書に関する一考察—「和字御文」をめぐって	ヒストリア273
長崎 健吾	戦国期京都における都市民の社会的結合と「家」	史学雑誌128-9
長又 高夫	「御成敗式目」第八条の法解釈をめぐって	国学院法学57-3
長又 高夫	召文違背、下知違背に対する泰時執政期の処分をめぐって	法史学研究会会報22
永山 愛	元弘・建武内乱期における軍事編成—南北朝最初期の軍勢催促状の検討	歴史学研究986

西尾 和美	戦国・織豊期毛利氏妻室の文書と署名-「つぼね」 呼称・候名・実名	『戦国期文書論』
西岡 芳文	中世日本における文書と情報の管理	歴史学研究985
西川 広平	鎌倉後期山城国上桂荘の伝領と文書	史学64
西村 安博	鎌倉幕府の裁判における和与の認可手続期間に ついて	法史学研究会会報22
西村 安博	内済をめぐる基本的な理解について-和与の理解 のためのノート	法史学研究会会報23
西村 安博	(書評)海老澤衷・近藤成一・甚野尚志編『朝河貫 一と日欧中世史研究』	法制史研究68
似鳥 雄一	検注帳の反復記載と開発-景観-備中国新見荘の 帳簿と現地	『よみがえる荘園』
新田 一郎	(書評)桜井英治著『交換・権力・文化-ひとつの 日本中世社会論』	法制史研究68
野木 雄大	鎌倉幕府御家人制と「御家人領」の成立-若狭国 太良荘を事例として	地方史研究402
秦野 裕介	室町時代における天皇論-室町時代の皇族によ る「正統」思想	日本思想史研究会会報35
秦野 裕介	室町・戦国時代における天皇の追号	『戦国・織豊期の政治と経 済』
花田 卓司	観応の擾乱期の恩賞宛行	日本文化史研究50
播磨 良紀	織田信長印判状論	『戦国期文書論』
東島 誠	「幕府」論のための基礎概念序説	立命館文学660
久水 俊和	中世天皇制と仏事・祭祀	歴史評論836
平井 上総	(書評)久野雅司著「京都における織田信長の相 論裁許と室町幕府」	法制史研究68
平生 遠	戦国期京郊公家領荘園にみる社会変容-山城国 久我荘における家僕と土豪をめぐる	市大日本史22
廣田 浩治	戦国期駿河諸階層と社会的諸関係-宿老岡部常 慶の寄進状からみた今川領国	『戦国・織豊期の政治と経 済』
廣田 浩治	戦国期肥後国の支配秩序-守護・老者・戦国領主 と境目	熊本史学100
廣田 浩治	中世駿河国の荘園公領制-公領(国衙領)を中心 に	研究論集歴史と文化4
廣田 浩治	中世駿河の荘園公領制と武家勢力	研究論集歴史と文化5
藤岡 琢矢	「赤松家風条々事」の再検討	歴史と神戸337
松園 潤一郎	将軍足利義植期の幕府訴訟制度について	一橋法学18-3
松園 潤一郎	中世における年紀法の機能と変容	一橋法学18-1
丸島 和洋	敢えて実名を記す-「二字書」という書札礼	古文書研究88
美川 圭	前近代の「天皇退位」をめぐる論点の整理	歴史評論835
水上 雅晴	東アジアの王権と年号-中世を中心に	歴史評論836
村井 良介	戦国期大友氏勢力圏における判物発給をめぐる	『戦国期文書論』
村上 絢一	中世後期における近江国葛川の領有体系	史林102-4
桃崎 有一郎	鎌倉末期の得宗家儀礼に見る長崎円喜・安達時 顕政権の苦境-得宗空洞化・人材枯渇・幕府保守	日本史研究684
森田 真一	戦国期東国における奉書式印判状の成立	『戦国期文書論』
矢田 俊文	戦国期北陸における権力構造と判物	『戦国期文書論』
山田 邦和	中世天皇制と都市京都-中世における大内裏と内 裏	歴史評論836
山田 貴司	一四世紀の武家官位論	年報中世史研究44
山田 徹	南北朝後期における室町幕府政治史の再検討(上) (中)(下)	文化学年報66, 67, 68
渡邊 俊	(書評)木下龍馬著「鎌倉幕府による裁許の本所申 入」	法制史研究68
渡邊 正男	丹波篠山市教育委員会所蔵「貞永式目追加」	史学雑誌128-9
[織豊・江戸期]		
東 俊祐	アイヌの交易世界と松前藩	歴史地理教育901

麻生 伸一	近世日本の対外政策と琉球	歴史地理教育901
荒木 裕行	幕藩間交渉における非制度的関係の位置づけ	歴史学研究989
李 炯周	一八世紀の倭館における日朝交渉と対馬の裁判役	名古屋大学人文学フォーラム2
五十嵐 一郎	同席大名間における「申合帳」の変遷過程－詰衆を例として	国史館史学23
池内 敏	「老中の内意」考－幕府は竹島漁業を公認・許諾したか	日本史研究682
池内 敏	「柳川一件」考	歴史の理論と教育152
伊藤 昭弘	一七世紀佐賀藩における鷹と鷹場	鷹・鷹場・環境研究3
稲葉 継陽	近世初期における百姓の法的地位と村共同体-島原一揆後の地域復興をめぐる-	永青文庫研究2
井上 智勝	本所と頭-近世本所論序説-	『天皇と朝廷』
岩野 公太郎	近世中期朝幕間交渉における内慮伺い制度の構造について-『広橋兼胤公武御用日記』の分析から	史観181
鶴飼 政志	昨今の明治維新时期国際関係史研究批判	明治維新史研究17
大澤 研一	豊臣期の大坂城下町	『大坂巻』
大沢 恵	幕府側史料による老中奉書の検討－来翰留・一紙目録留・奉書留・当日奉書留に着目して	『幕府・藩』
小倉 宗	幕府役人と享保期の改革	『京都巻』
尾崎 真理	近世中後期における幕府の代官配置原則	ヒストリア277
片保 涼介	近世日本の贖刑論の一考察(1)～(3)	立命館法学377, 381・382,384
加藤 鞠花	天保郷帳作成時における相模川の流作場調査	中央史学42
木村 直樹	幕府の「鎖国」政策とその実態	歴史地理教育901
黒嶋 敏	織田信長と銀山・撰銭令	歴史学研究988
桑原 朝子	連載／リーガル・ラディカリズム第2回 ルールの破り方3 「国法」が破られる意味-近松門左衛門『博多小女郎波枕』の分析を手掛りとして	論究ジュリスト28
桑原 朝子	学界展望<日本法制史>鈴木俊幸『近世読者とそのゆくえ 読書と書籍流通の近世・近代』	国家学会雑誌132-1・2
越坂 裕太	近世前期における献上と大名家格秩序－宗家の「十万石以上格」創出に注目して	日本歴史856
後藤 正人	享保5年、上総国市原、武蔵国都筑、常陸国多珂各郡下の入会紛争－幕府評定所の入会裁判(3)	入会林野研究39
後藤 正人	生類憐みの令の裁判史料と解説(3)－常陸国新治・下野国都賀・上総国山辺各郡などの捨馬事例	法社会史紀行6
後藤 正人	西国郡代管轄下の変死事件をめぐる幕藩法関係－御料と二つの私領にかかわって	法社会史紀行6
後藤 正人	東九州の自然災害と救済をめぐる法社会史－高鍋藩領を通じて	法社会史紀行6
小林 伸成	近世琉球末期における八重山への異国船来航とその対応	立正史学125
小林 宏	桑名藩柏崎学問所の教育について－「柏崎日記」による考察	國學院法學57-2
小宮 木代良	江戸幕府右筆所日記について	『文書の保存・管理』
小宮山 敏和	江戸幕府の行政運用における「申合」の機能	『幕府・藩』
斎藤 一	近世林野所有再考－出雲鉄山の諸事例を題材に	日本史研究681
齋藤 紘子	大坂城の定番家臣団と都市社会	『大坂巻』
佐々木 千恵	幕末における幕府の洋学統制－洋学所による翻訳草稿検閲	洋学26
笹部 昌利	文久政治と朝議参与－大名による国事運動とその限界	『政治と地域』
篠村 正雄	生類憐みの令と弘前藩	弘前大学国史研究146
嶋野 恵里佳	近世初期城普請技術の継承性－大坂城再築を中心に	織豊期研究21
清水 翔太郎	近世後期における大名の娘の年齢操作と婚姻	国史談話会雑誌60
清水 翔太郎	近世前期における国持大名の縁組	日本史研究681

清水 紘一	近世の長崎の禁書令をめぐって－寛永七年説と禁書目録	『長崎政事』
清水 紘一	西国探題の設置と諸過程－寛永十六年～寛文十年	『長崎政事』
清水 紘一	宗門改役の成立と変遷	『長崎政事』
清水 紘一	長崎奉行に発給された御渡物－寛永十年～慶応三年	『長崎政事』
白峰 旬	いわゆる小山評定に関する若干の検討－江戸時代初期の二次史料の記載について	『戦国・織豊期の政治と経済』
神保 文夫	評定所留役小考	『幕藩法』
菅 良樹	山崎藩本多家の幕政における政治的・軍事的役割	『大坂・大坂城』
鈴木 乙都	慶応期における幕府機構の変容	愛知学院大学大学院文学研究科文研会紀要30
鈴木 康子	近世後期オランダ人に対する抜荷禁止令とブルフ号事件－「安永四乙未歳御奉行桑原能登守様御書出之写」と「安永二癸巳年横文字願書并和解」を中心として	『長崎政事』
鈴木 康子	一八世紀後期～一九世紀初期の長崎と勘定所－松山惣右衛門(伊予守)直義を中心として	長崎学3
関口 博巨	江戸幕府の「人身売買令」をめぐって－元和幕令の基礎的研究	歴史民俗資料学研究24
相馬 美貴子	北上川破舟関係資料	一関市博物館研究報告22
高木 侃	武士の三くだり半－实例の紹介を中心に	『幕藩法』
高久 智広	幕末維新期の海防・開港をめぐる幕府政策と地域社会－「将軍の港」構築から開港へ	民衆史研究97
高塩 博	熊本藩「御刑法草書附例」の伝本について－最高裁判所図書館所蔵本の紹介	熊本史学100
高塩 博	陸奥国二本松藩の刑事判例集について	『幕藩法』
高槻 泰郎	寛政十二年大坂御用金に関する一考察	史艸60
武井 眞固	飛騨屋久兵衛の軌跡とその生き方(3)－三代倍安の飛騨屋の経営戦略と転換	法社会史紀行6
田高 彰子	幕末朝廷の政治行動について	法政史論46
橘 敏夫	綱吉政権期の捨馬札	交通史研究94
館山 誠	元禄八・九年飢饉下の弘前藩における牢死について(下)	弘前大学国史研究146
田中 暁龍	近世撰家の家領と「関白料」	日本歴史854
田中 暁龍	近世「武家伝奏」の成立	『天皇と朝廷』
谷 徹也	豊臣政権の京都政策	日本史研究677
谷口 央	豊臣政権から江戸幕府へ－関ヶ原の戦いをめぐる政治史	織豊期研究21
田原 昇	幕府役人の任用形態に関する一考察－小伝馬町牢屋敷役人を事例に	『幕府・藩』
多和田 雅保	町人地と山林用益権	歴史評論825
千葉 拓真	生類憐みの令と飯田藩－元禄2年令にかかわる動向を中心に	飯田市歴史研究所年報16
中川 学	近世加茂社の神社内争論と天皇・朝廷－社職補任をめぐる争論処置過程に注目して	新しい歴史学のために294
中野 等	慶長三年の豊臣政権	織豊期研究21
浪川 健治	自然と政治のimbalance－「天気不勝」と「死罪除日」	歴史132
奈良 勝司	条約勅許・万国公法・大攘夷－条約勅許後の対外関係の構想と展開	明治維新史研究17
西村 慎太郎	近世非蔵人の成立と展開	『天皇と朝廷』
橋本 鶴人	近世後期における神事舞太夫と修験争論	埼玉大学紀要〈教養学部〉54-2
林 由紀子	江戸幕府服忌令と庶民－『官刻孝義録』等を手がかりとして	『幕藩法』
針谷 武志	近世後期の海防と「慶安軍役令」	『幕府・藩』

深井 雅海	江戸幕府「年頭御礼」の仕組みと格式－延宝・元文・天保期の比較を通して	金鯨叢書46
藤井 明広	文化期における大坂目付の「遠国御用」－京都在勤時の動向を中心に	交通史研究94
藤井 明広	文政期における駿府目付の職務実態－旗本仁賀保誠教の動向を中心に	立正大学文学部論叢142
藤井 讓治	慶長五年の「小山評定」をめぐって	龍谷日本史研究42
藤田 和敏	近世中期出雲国における天台宗寺院序列の展開	仏教史学研究61-2
藤田 覚	近世の皇位継承	『天皇はいかに』
藤田 英昭	幕藩関係の変容と徳川慶勝の「公武合体」運動	『幕府・藩』
藤本 仁文	三井文庫所蔵の將軍上洛・在坂時関係史料について	『大坂・大坂城』
藤原 有和	河内国石川郡新堂村領富田村の人びとの通婚圏について－一七〇七年から一八一五年まで	部落解放研究210
堀 亮一	関東における代官所の機能－支配領域を越えて	『幕府・藩』
本多 隆成	「小山評定」再々論－家康の宇都宮在陣説を中心に	地方史研究69-2
松尾 美恵子	徳川政権の「国分」と国主・城主・領主	『幕府・藩』
松方 冬子	国書がむすぶ外交－一五・一六世紀東・南シナ海域の現場から和文脈の世界史をさぐる	『国書』
松方 冬子	約條と契約－徳川政権の外交とオランダ東インド會社	東洋史研究78-3
松澤 克行	山科頼言の議奏罷免と宝暦事件	『天皇と朝廷』
三宅 正浩	近世前期の武家社会と都市京都	『京都巻』
宮田 直樹	延享三年出羽国村山郡御料所巡検に関する一考察－米沢藩と預所村々の対応から	山形史学研究47
村石 正行	初期松本藩領における法と下達文書－慶長一九年発給の小笠原秀政印判状・制札をめぐって	信濃71-12
村田 路人	幕末期における大坂町奉行所の広域支配と医療行政－種痘事業の検討から	『大坂・大坂城』
守屋 浩光	対馬藩における「交奸」について－「罰責」掲載の判決の紹介を中心に	『幕藩法』
安高 啓明	刑法草書の運用と罪状認定過程－盗賊・倉庫堅完を事例に	熊本史学100
安竹 貴彦	一八世紀前半における紀州藩の広域捜査－牢番頭家文書からうかがう	『幕藩法』
山口 和夫	「公武法制応勅十八箇条」について	『天皇と朝廷』
山崎 圭	東信濃幕府領の天保飢饉	中央大学文学部紀要〈史学〉64
山下 祐樹	近世大名の家格－松代藩真田家を事例に	信濃71-3
山中 至	熊本藩「結果責任主義」克服の歩み	『幕藩法』
山本 英貴	家斉期の幕藩関係－毛利家の家格上昇運動を素材として	歴史学研究989
山本 博文	元和の大殉教と宣教師の寛容	『キリスト教と寛容』
吉田 伸之	巨大城下町近郊地帯の海面秩序	『江戸巻』
吉田 正志	盛岡藩の罪と罰雑考(1)～(4)	法学〈東北大学〉82-4,5,6,83-1
吉田 正志	(書評)高塩博著『江戸幕府法の基礎的研究《論考篇》《史料篇》』	法制史研究68
吉成 香澄	徳川將軍姫君の縁組と御住居について	『幕府・藩』
吉元 加奈美	堀江新地における茶屋町	『大坂巻』
渡辺 修	近世後期加茂伝奏の機能－朝廷の「官裁」と「勅裁制札」を中心にして	『天皇と朝廷』
渡辺 尚志	山野からみた明治維新	『貧困と医療』
[明治以降]		
秋本 達徳	明治期帝国議会の政策形成力－災害地田畑地租免除制度の創設	『地域と政治』

秋山淳子・星野厚子・村上こずえ	所蔵資料紹介(特定歴史公文書等) 東京大学「紛争日誌 その1」	東京大学文書館紀要37
浅野 豊美	朝河貫一の占領下民主化政策批判と憲法九条・反省の象徴としての天皇制	『朝河貫一』
天野 雅夫	日本の河川と治水-天野礼子『ダムと日本』を読んで	法社会史紀行6
新井 勝紘	「五日市憲法草案」発見とその意義-深沢家土蔵内で出会ってから50年	自由民権32
新井 勝紘	東京歴史科学研究会二〇一八年度歴史学入門講座 五日市憲法の発見から五〇年-わたしが体験した歴史研究のダイナミズムと醍醐味	人民の歴史学-東京歴史科学研究会機関誌219
新井 勝紘	土蔵の中で「五日市憲法」を最初に手にしてから50年-歴史発掘と地域史研究の醍醐味	知多半島の歴史と現在23
荒邦 啓介	《憲法ではない法》の規整力-日本憲法史における憲法と軍隊との関係についての覚書	法律時報91-5
荒邦 啓介	大正末期の陸軍の《統帥権研究》管見	防衛法研究43
荒邦 啓介	統帥権のゆくえ-昭和28年の憲法改正案から考える	憲法研究51
荒邦 啓介	「広瀬試案」の作成過程-戦後憲法改正論議についての覚書	高岡法学37-0
新谷 真人	篠原民法学と労働法学の交錯	『新たな地平』
居石正和・加藤高・紺谷浩司・上川内宏・矢野達雄	(資料紹介) 明治二二(一八八九)年五月十五日司法省へ進達ノ分控 山口始審裁判所『人事判決例』(民事第一六六号)について(完)-山口地方裁判所所蔵裁判史料より	修道法学42-1
石田 眞	労働立法政策史における「連続」と「断絶」-労働法研究における「歴史」の面白さ(労働と法/私の論点)	労働法律旬報1937
池田 智文	近代天皇制と陵墓問題に関する一考察	竜谷史壇148
伊藤 孝夫	(書評) 出口雄一著『戦後法制改革と占領管理体制』	法制史研究68
井上 直子	交錯する「公民」の境界-一九三〇年前後における「婦人公民権」問題をめぐって	ヒストリア272
猪原 透	「自由民権」と「社会主義」のあいだ-久松義典の社会学研究をめぐって	立命館大学人文科学研究所紀要117
今井 慶宗	防空監視隊員に関する法制度の研究	防衛法研究43
今野 日出晴	内面化される「規範」と動員される「主体」	歴史評論828
岩谷 十郎	(書評) 橋本誠一著『明治初年の裁判-垂直的手続構造から水平的手続構造へ』	法制史研究68
上西晴也・佐藤大悟・塚原浩太郎・谷川 みらい・志賀賢二	翻刻と紹介「奥田良三日記 昭和十五年」	東京大学日本史学研究室紀要23
牛村 圭	「文明」の裁きに応えようとした法哲学者-東京裁判弁護団長鶴澤總明	『新たな地平』
江戸 恵子	外交史料館所蔵 梅錦之丞に対する養育料請求ほか一件文書-明治前期在外邦人裁判の周辺	法史学研究会会報22
榎 一江	大原社会問題研究所と初期社会調査	大原社会問題研究所雑誌734
榎 一江	大原社会問題研究所の初期活動-百年史編纂にあたって	大原社会問題研究所雑誌724
頼原 善徳	日本国憲法第七十三条第三号成立前史再考	立命館大学人文科学研究所紀要117
袁 甲幸	地方税寄付収入に対する府県会議定権の変遷-三新法から府県制へ	日本歴史855
大泉 陽輔	近代日本における特許権者の素描	『身分と経済』
大庭 裕介	第一議会前夜の山田顕義と条約改正交渉-司法省の「二流官省化」をめぐる政治史的要因	国士館史学23

大平 祐一	井ヶ田良治先生と日本法史－井ヶ田良治先生を偲んで	新しい歴史学のために295
大村 敦志	アレティストとしての星野英一(1)－星野英一研究資料(3)	法学協会雑誌136-11
岡野 純司	戦前期の百貨店における返品制の実態分析	専修経営学論集107
奥田 晴樹	明治維新史研究と地主制論	立正大学文学部研究紀要35
奥山 恭子	明治民法の「妻の無能力」条項と商業登録たる「妻登記」－明治立法期民法・商法の相関性と相乗性の一端	横浜法学27-1
小沢 奈々	穂積重遠の「推定されない嫡出子」論	横浜国立大学教育学部紀要Ⅲ社会科学2
小関 素明	近代日本の公権力と戦争「革命」構想	立命館大学人文科学研究所紀要117
小野 博司	(書評)稲永祐介著『憲政自治と中間団体－木喜徳郎の道義的共同体論』	法制史研究68
尾脇 秀和	近世「名前」の終焉と近代「氏名」の成立－官位の通称利用の破綻とその影響	明治維新史研究16
笠原 英彦	皇室財産制度と宮府関係論－天皇統治の正統性	法学研究92-4
笠原 英彦	明治皇室制度の形成と伊藤博文・シュタインの「邂逅」－井上毅・柳原前光と福澤諭吉の皇室論	法学研究92-11
梶尾 良太	戦時体制下における日本の海運業と統制－一九三七年～一九四二年	北大史学59
加藤 学陽	神戸寅次郎のドイツ留学と法学通論講義	近代日本研究36
加藤 雅信	明治一五〇年－日本民法典の軌跡と、現在(1)	名古屋大学法政論集282
加藤 祐介	皇室における御料農地経営の展開－一八八九～一九一八年	日本史研究680
加藤 祐介	第一次世界大戦後の近代天皇制－研究史の整理と方法の提起	メトロポリタン史学14
加藤 陽子	近代の三人目の天皇として－昭和天皇の場合	『天皇はいかに』
金井光生翻刻・解題	〔翻刻〕鈴木義男「所謂軍事教育案批判」(1924年)ほか	福島32-2
上白石 実	明治新政府の外交体験と条約理解－明治三年不開港場規則・難船救助をめぐる	『日本と世界』
川角 由和	「法社会学論争」の教訓(8)～(12)－市民法学(ないし市民法論)の〈戦前〉と〈戦後〉・ひとつの素描	龍谷法学51-3, 4, 52-2, 3
川東 輝弘	星野博士の学問と松山商科大学の歴史(4)～(7)－ある進歩的民法・民法典研究者の学者人生	松山大学論集30-6, 31-1, 2, 3
川東 輝弘	増岡喜義学長と松山商科大学の歴史	松山大学論集31-5
河西 秀哉	戦後天皇制と天皇－制度と個人のはざまでの退位	『天皇はいかに』
北浦 貴士	1893～1899年の株式会社規制	明治学院大学経済研究157
君塚 直隆	立憲君主制の理想像と大衆民主政治の到来	『戦後史』
久保田 哲	(書評)湯川文彦著『立法と事務の明治維新－官民共治の構想と展開』	法制史研究68
小池 聖一	公文書管理法修正試案再考	広島大学文書館紀要21
小石川 裕介	科学技術時代に総合知を考える－文系学問不要論に抗して	『人文社会科学と法学者』
小石川 裕介	「戦前・戦後の転換」のあいだ－日本管理法令研究会における田中二郎の憲法理解	法律時報91-1
孔 穎	明治期の東京警監学校と清国留学生	東アジア文化交渉研究12
国分 航士	大正後期の「宮中」問題と議会	史淵156
小柴 佑太	活動写真興行取締規則についての考察－フィルムの甲乙種別制度を巡って	法政史学92
小島 和貴	近代日本「健康保護」事業のための仕組みづくり－長与専斎文部省医務局長及び内務省衛生局長時代を中心として	桃山法学29

小杉 康博	明治期刑事法制と「秩父事件」の考察	日本大学大学院法学研究 年報49
児玉 圭司	大正・昭和戦前期における未決拘禁制度改革－ 未決拘禁施設の独立をめぐって	法学紀要61
児玉 圭司	明治20(1887)年の「監獄則改正草案」－その編纂 過程を中心に	法史学研究会会報22
後藤 正人	回想の憲法研究所顧問・井ヶ田良治先生	憲法研究所ニュース38
後藤 致人	二つの天皇代替わりと先帝認識	年報近現代史研究11
小林 武	「八重山共和国」構想のあとさき－石垣史が放つ 光彩	愛知大学法学部法経論集 219
小林 史明	三宅正太郎の法思想－「裁判の道」と芸術の關係 について	法律論叢91-6
小林 正士	篠原敏雄市民法学とヘーゲル国家論	『新たな地平』
小柳 春一郎	目的物の利用不能・制限と賃料支払義務の関連 －仏民法・旧民法典・明治民法	『土地住宅の法理論と展 開』
古山 悟由	國學院大學図書館小史－付分類規程	國學院雑誌120-2
三枝 一雄	昭和四九年商法改正と法制審議会商法部会小委 員会(十五ノ三)(十五ノ四)－民事局参事官室試 案修正案(第二次)を中心として	法律論叢91-4・5, 6
三枝 一雄	昭和四九年商法改正と法制審議会商法部会小委 員会(16ノ1)－民事局参事官室試案修正案(第三 次)株式会社監査制度改正要綱(案)を基に	法律論叢92-2・3
齋藤 暁	初期樋口陽一の憲法学とく戦後憲法学の知的状 況(2)(3)－日本戦後憲法学史研究・序説	法学論叢185-2
坂口 貴弘	アーカイブズにおける秘密情報保護と資料公開－ 欧州のデータ保護制度を手がかりに	創価教育12
坂口 貴弘	政府の公文書管理を考える－「アーキビストの職 務基準書」を手がかりとして	歴史評論827
櫻田 嘉章	熊野敏三による「国際法」及び「佛蘭西民法前加 巻講義」	甲南法務研究15
坂詰 智美	若松県に出された「違式註違条例」	専修大学今村法律研究室 報70
佐竹 宏章	詐欺罪における構成要件的結果の意義及び判断 方法について(6)－詐欺罪の法制史的検討を踏ま えて	立命館法学381・382
七戸 克彦	日本評論社・旧社時代出版目録(2)(3)	法政研究86-1, 2
七戸 克彦	日本評論社初代社長・茅原茂と第二代社長・鈴木 利貞について(2)	法政研究86-1
島 善高	熊本藩校時習館における「義殺」論議(1)	法史学研究会会報22
島 善高	副島種臣と銭子琴－明治初年、日中文化交流史 の－コマ	大倉山論集65
正田 浩由	林銑十郎内閣期における「反撥集団」としての既 成政党－衆議院議員選挙法改正をめぐって	白鷗大学論集33-2
白木 正俊	日本近代都市社会における公共政策とその需要 に関する一考察－開業初期における京都市水道 事業をめぐって	歴史学研究990
末澤 国彦	弁護士法制定と弁護士試験について－議会で の審議を中心に	日本法学85-2
末光 祐一	所有者不明土地と旧民法の深いかわり	法の苑69
鈴木 敦	制憲期の安全保障構想－日本国憲法第九条と国 連集団安全保障との關係を中心として	軍事史学54-4
須藤 陽子	日本法における「比例原則」－その歴史性と独自 性(公法解釈における「先例」と「原理・原則」)	公法研究81
関 武志	不動産質における目的物の引渡しの意義－維新 期から明治10年代までを中心に	青山法学論集61-1
関野 通夫	原爆投下の残虐性を中和するための東京裁判と、 その効果を持続させる日本国憲法に関する論考	『新たな地平』

瀬戸口 龍一	明治初年の熊本地域における法学教育に関する一考察－大江義塾を中心として	専修大学史紀要11
銭 偉栄	明治前期における精神障害者の加害行為とその責任－民法714条に基づく監督義務者責任の基礎的考察	松山法学30-5
高木 浩明	【資料紹介】森銃三刈谷日記・下(大正六年一月一日～六月三〇日)	書物・出版と社会変容22
高木 まどか	出版統制と遊女評判記－貞享・元禄以降の販売差止例と記述内容の変化をめぐって	日本常民文化紀要 34
田頭 慎一郎	加藤弘之の「立憲的族父統治」論と「脱亜」－明治20年代のナショナリズム論の中から	『国家意識』
高田 久実	贖罪・収贖から罰金刑へ－明治初期の刑事罰と法典化	『身分と経済』
高橋 賢司	戦前および戦中における就業規則法制の法史的研究－就業規則に関わる法思想と理論の変遷	立正法学論集53-1
高橋 史朗	WGIPを実証する対日占領文書	『新たな地平』
高橋 力也	国際法の法典化と戦間期日本	『戦後史』
竹本 知行	山田顕義における軍隊観の形成－渡正元との邂逅を手がかりに	軍事史学55-3
田中 亜紀子	明治期における刑事弁護－治罪法導入前後の状況	『「前段の司法」とその担い手』
田上 雄大	歴史にかかわる法令についての考察－「記憶法」を中心に	政経研究56-2
趙 頌	近代日本の請願制度の研究(4)(5)－立憲政治と民意との関係及び衆議院の政府監督・批判、1890～1932年	名古屋大学法政論集281, 283
塚越 健司	不良の統治技術における国家意識形成	『国家意識』
出口 雄一	「戦時体制」のなかの沖縄－1950～1960年代の刑事裁判権をめぐる問題から	桐蔭法学26-1
出口 雄一	法の社会史的考察と「戦後法学」－1960年代の基礎法学方法論をめぐる覚書	桐蔭法学25-2
陶 波	社会学と社会的福音	『朝河貫一』
徳嵩 敦子	戦前の児童虐待防止法について(2)－その実態と法の意義	法政史学91
中川 修一	明治憲法における自由権の検討(2)－第2章の流れ	秋田法学60
中立 悠紀	旧帝国陸海軍軍人と靖国戦犯合祀の関係－BC級戦犯合祀の経緯	史学雑誌128-7
中西 啓太	明治期における全郡町村組合の機能と郡制－京都府乙訓郡の事例から	日本歴史852
中村 克明	五日市憲法草案の防衛構想	関東学院大学人文学会紀要140
奈倉 文二	ジームス事件の再検討－「海軍収賄事件」裁判記録の分析を通じて	国際武器移転史7
奈良 勝司	条約勅許・万国公法・大攘夷－条約勅許後の対外関係の構想と展開	明治維新史研究17
名和 悦子	国立公文書館所蔵公文録、外交史料館所蔵「花房義質関係文書」及び岡山県立記録資料館所蔵「花房端連・義質関係資料」から－明治六年政変前後の日朝関係と副島種臣の東アジア政策について	研究論集(河合文化教育研究所)14
西川 誠	皇室典範の制定－明治の皇位継承	『天皇はいかに』
橋本 誠一	日本における近代的所有権の形成	法律時報91-2
蓮沼 啓介	西周と法哲学の未来	神戸法學雑誌69-1
蓮沼 啓介	破婚の深層	神戸法學雑誌69-2
長谷川 貴陽史	末弘巖太郎におけるデモクラシー概念の変質	論究ジュリスト30
濱田 恭幸	三新法体制下における府県分合と府県会－地方税支出の再検討	日本史研究683

林 真貴子	近代日本における無資格者による法定代理とその終焉	『「前段の司法」とその担い手』
林 真貴子	(書評)水野浩二著「葛藤する法廷(一)―(三・完)―『法律新聞』の描いた裁判官・民事訴訟・そして近代日本」	法制史研究68
林 義大	戦前期日本における「宗教法人」制度の成立過程―法人法制としての宗教団民法	九州史学182
馮 雪嬌	関東地域における明治十年代前半の質地請戻し請求―千葉支庁の判決を中心に	早稲田大学大学院法研論集171
福井 康太	「第三者委員会」の法社会学―「市民法学」との関係で	『新たな地平』
福永 清貴	篠原民法学と民事訴訟法学の交錯―民事訴訟目的論に関する一試論	『新たな地平』
淵脇 千寿保	旧刑法から現行刑法過渡期の因果関係判例の整理	志学館法学20
古川 隆久	日中戦争期の前田米蔵―前田の憲政論を中心に	史学雑誌128-6
堀野 周平	直轄県における議事制度―浦和県御用会所組合を事例に	立正史学126
本多 八穂	明治32年所得税法における納税主体―法人所得に対する所得課税の導入	横浜国際社会科学研究所27-1
前田 亮介	幻の「道州制」―日露戦争前夜の府県廃合論争	日本歴史850
増田知子・佐野智也	近代日本の『人事興信録』(人事興信所)の研究(5)(6)	名古屋法政論集281, 282
松尾 弘	日本における土地所有権の成立―開発法学の観点から	慶應法学41
松本 洵	初期議会自由党の〈党議〉―議会制度下における一体性の模索	国家学会雑誌132-9・10
三木 由希子	訴訟記録の情報公開と記録保存という難題(1)―民事訴訟をめぐって(2)―刑事訴訟をめぐって	時の法令2081, 2083
水野 浩二	「実務向け文献」に見る明治民事訴訟法―審理の準備と審理過程をめぐって	北大法学論集70-3
水野 浩二	明治民事訴訟法の「使い方」―手続の手引・書式集・素人向け手引の検討	『法を使う』
三田 奈穂	明治期の警察監視について	成蹊法学91
宮本 弘典	ニホン刑事司法の古層・再論(1)―思想司法の系譜	関東学院法学28-2
村上 一博	安藤正楽が学んだ明治法律学校とその周辺	明治大学史紀要25
村上 一博	井ヶ田良治先生を偲んで	比較家族史研究33
村上 一博	「オンライン版 三木武夫関係資料」解題 第二部 田中角栄内閣期(1972年～74年)	明治大学史資料センター編『オンライン版 三木武夫関係資料』
村上 一博	追悼の辞 井ヶ田良治先生のご逝去を悼む	法制史研究68
村上 一博	ボアソナードと三兄弟	明治大学史紀要25
村上 一博	弁護士山崎今朝弥の上告担当事件(民事)	法史学研究会会報22
村上 一博	(書評)末木孝典著『選挙干渉と立憲政治』	図書新聞338
村上こずえ・森本祥子	井上哲次郎「翼軒日記 大正二年 上半期」	東京大学文書館紀要37
森 靖夫	近代日本における「国家総動員」準備の形成(1918～1927)	同志社法學71-4
森 靖夫	戦間期イギリスの「国家総動員」準備(1924～1939)	同志社法學71-5
森 靖夫	日本の国家総動員のモデル―『資源』(1931～1937)を手がかりに	同志社法學70-6
森田 朋子	明治初年のフランス領事裁判―佃島漁者由次郎砲殺一件を事例として	『日本と世界』
森本 祥子	公文書管理法制度下における文書分類の課題―新たな体系化についての試案	東京大学文書館紀要37
矢切 努	(書評)吉田満利恵著「大正二年司法部大改革再考」	法制史研究68
安竹 貴彦	日本国憲法と恒藤恭	大坂市立大学史紀要12

安竹貴彦・「諸吟味書」研究会	「諸吟味書」(貳拾番帳)(貳拾貳番帳)(貳拾三番帳の一)－明治2年大阪府の刑事判決録	法学雑誌64-3, 64-4, 65-3-4
矢田 陽一	木村亀二の間接正犯論－新派傾斜的折衷主義と実行行為概念	比較法制研究41
矢田 陽一	団藤重光の間接正犯論－古典学派(旧派)傾斜的折衷主義と実行行為概念	國士館法學52
矢野 達雄	法社会学と法制史－私の研究実践から	修道法学42-1
矢野 達雄	(書評)三阪佳弘著「近代日本における『前段の司法』とその担い手－一八八〇年代滋賀県彦根地域の民事判決原本にあらわれた代言人と代人を素材として」	法制史研究68
矢野達雄・加藤高・紺谷浩司・上川内宏	(資料紹介)明治九(一八七六)年・十(一八七七)年分 山口始審裁判所『裁判言渡書』(民事第四三号)について(二・完)－山口地方裁判所所蔵裁判史料より	修道法学41-2
矢野達雄・加藤高・紺谷浩司・増田修・居石正和・三阪佳弘	(資料紹介)松江地方裁判所所蔵裁判所文書目録(民事編)1－旧広島控訴院管内裁判所文書目録(2)	修道法学42-2
矢野達雄・上川内宏	(資料紹介)登記法(明治19年)制定前後の伺と指令－山口県文書館所蔵の法務局文書「訓令訓示通達通牒」より	修道法学42-2
矢吹 晋訊	朝河貫一『明治小史』－(1)、帝国憲法と政治経済	横浜市立大学論叢. 社会科学系列70-1
矢吹 晋	朝河貫一『明治小史』－(2)、日清戦争と東アジア	横浜市立大学論叢. 社会科学系列70-1
矢吹 晋訊	朝河貫一『明治小史』－(3)、日露戦争とその帰結(1904～1910) [解説]朝河貫一著『明治小史』について	横浜市立大学論叢. 社会科学系列70-2
山内 進	(書評)柳原正治・篠原初枝編『安達峰一郎－日本の外交官から世界の裁判官へ』	法制史研究68
山内 晴子	朝河貫一－の戦後構想「民主主義」とOpen Letter〈回覧書簡〉の役割	『朝河貫一』
山口 亮介	『泰西国法論』稿本他にみる西洋法認識の東洋的前提	一滴26
山口 亮介	天保・弘化期のオランダ法典翻訳におけるburger関連語の訳出－『和蘭律書』「断罪篇」を中心に	『身分と経済』
山口 亮介	日本における律令の参照に関する覚書－明治初期の法解釈における中国律との「権衡」をめぐる	白門71
山田 邦夫	アメリカが見た明治憲法体制の進化と後退－政党内閣期から2.26事件まで	レファレンス817
山中 仁吉	明治初期民法会議における夫婦と相続－司法卿期江藤新平を中心に	北大法政ジャーナル26
湯川 次義	女性の高等教育改革と教育基本法・学校教育法の制定－機会均等と共学の視点から	学術研究. 人文科学・社会科学編68
湯川 次義	戦後教育改革期における女性の大学教育改革論議－アメリカ教育使節団・教育刷新委員会を中心に	早稲田大学大学院教育学研究科紀要30
湯川 次義	戦後教育改革期における新制大学の共学化に関する一考察－その政策と共学化の背景を中心に	学術研究：人文科学・社会科学編67
湯川 次義	『早稲田大学百五十年史』の概要とそこに求められるもの	早稲田大学史記要50
吉田 武弘	貴衆両院関係の出発－議会制度導入過程における二院制論の展開	ヒストリア277
吉田 武弘	大正期における政党政治と貴衆両院関係の展開	歴史の理論と教育153
吉永 一行	近代国家と民法－幕末からの卒業論文と21世紀への宿題	産大法学52-4
吉永 圭	小野清一郎における法思想と仏教思想	大東法学29-1
吉原 丈司	牧英正先生略年譜・著作目録稿	法史学研究会会報22

頼松 瑞生	蘆津実全の憲法論	東京電機大学総合文化研究17
頼松 瑞生	打木村治の『部落史』に関する法的考察	法史学研究会会報22
路 剣虹	佐々木惣一における「国民」「国家」－帝国憲法から日本国憲法へ	東アジアの思想と文化10
渡辺 尚志	利水と治水からみた明治維新	歴史学研究990